

2021年度 SDGs 年次活動報告書（2021年2月1日～2022年1月31日）

# 20 SDGs | 21 report

株式会社アーバンリサーチは国際社会の一員として  
積極的にSDGs(持続可能な開発目標)を支援します。



Top Message



代表取締役社長 竹村 幸造

2021年度は、依然として私たちを取り巻く社会状況が急速に変化するなか、当社としても迫りくる環境・社会・経済問題にどう対峙していくか、大いに悩み、決断した1年がありました。

2022年度は、そういう社会状況とともに変化するお客様のニーズを見極め、「ファッショング」「アスレジャー」「ライフスタイル」「サステナビリティ」の4つの分野に特化した新たな事業展開を計画しています。特にサステナビリティに関しては、業界全体が抱える喫緊の課題に対し、解決へ向け貢献できるよう尽力していく所存です。

さらに、国連グローバルコンパクトへの入会により、「人権」「労働」「環境」「腐敗防止」の4つの分野に関わる10の原則を遵守し、施策の具現化に努めます。

今後も経営戦略とサステナビリティを一体的に推進し、挑戦と革新を重ね、皆様から必要とされる企業へと成長してまいります。

引き続き変わらぬご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。

## **index**

---

**1. Hot Topic** (p.3~p.5)

**2. SDGs 基本方針「3C」紹介** (p.6~p.8)

**3. 3Cの主な活動事例** (p.9~p.16)

**4. 2021年度の活動** (p.17~p.28)

**5. 社内の動き** (p.29~p.34)

1

## Hot Topic

20  
SDGs  
21  
report



### 「国連グローバルコンパクト」に参加企業として登録(2021/04)

当社は、国連が提唱する「国連グローバル・コンパクト（以下 UNGC）」に署名し、2021年4月16日付で参加企業として登録されました。また、UNGCに署名している日本企業および団体などで構成される「グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン」に加入いたしました。

UNGCではSDGsをはじめとする国連の掲げる目標の達成に向けた活動を推進し、参画する企業・団体は、UNGCが掲げる「人権」「労働」「環境」「腐敗防止」の4つの分野に関わる10の原則への賛同と、実践が求められています。

当社は、「すごいをシェアする」という企業理念のもと、アパレル企業視点で個性を生かしたSDGsへの取り組みを推進しております。このたびの署名にあたり、UNGCの4分野にわたる10原則を遵守、実践し、引き続きサステナブルな社会への実現へと貢献してまいります。

#### 国連グローバルコンパクト10原則

##### 人権

- 原則 1：人権擁護の支持と尊重
- 原則 2：人権侵害への非加担

##### 環境

- 原則 7：環境問題の予防的アプローチ
- 原則 8：環境に対する責任のイニシアチブ
- 原則 9：環境にやさしい技術の開発と普及

##### 労働

- 原則 3：結社の自由と団体交渉の承認
- 原則 4：強制労働の排除
- 原則 5：児童労働の実効的な廃止
- 原則 6：雇用と職業の差別撤廃

##### 腐敗防止

- 原則 10：強要や贈収賄を含むあらゆる形態の腐敗防止の取組み

##### United Nations Global Compact

「国連グローバル・コンパクト」は、国連に民間（企業・団体）が参加し、健全なグローバル社会を築くことを目的とした、世界最大のサステナビリティイニシアチブです。

「グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン」は、2003年12月に発足した日本のローカルネットワークであり、国連グローバルコンパクトに署名・加入している企業・団体が共にサステナビリティを推進しているプラットフォームです。

## 1. Hot Topic



### 「ジャパンサステナブルファッショナライアンス」に 正会員として加盟 (22/01)

当社は、「ジャパンサステナブルファッショナライアンス (JAPAN SUSTAINABLE FASHION ALLIANCE 以下、JSFA)」に、2022年1月4日付で正会員として加盟いたしました。

本アライアンスへの加盟を通じて、サステナブルなファッショングラントへの移行へ貢献するとともに、当社におけるサステナビリティの取り組みをより一層推進してまいります。

#### JAPAN SUSTAINABLE FASHION ALLIANCE

JSFAは、ファッション産業が自然環境や社会に与える影響を把握し、ファッション及び繊維業界の共通課題について共同で解決策を導き出し、「適量生産・適量購入・循環利用によるファッショングラントゼロ」と「2050年カーボンニュートラル」を目標に、サステナブルなファッショングラントへの移行を推進することを目的としています。

会員企業は定期的に会議を開催し、サステナブルファッショングラントに関する知見の共有、ファッショングラントゼロとカーボンニュートラルに向けた協働、生活者との双方向なコミュニケーション、国内外の重要動向の先行把握、業界内の共通課題の改善などのために必要な政策提言を関係省庁に行います。

#### message

##### 執行役員

##### 萩原 直樹

2021年度は、社内各部門に新たに「サステナビリティ担当」を新設し、SDGs支援をより強力に推進する体制を構築しました。これによりサステナブル素材の使用、過剰包装廃止、備品削減など、全社横断的な取り組みが進みました。

また、今期は新たに「国連グローバルコンパクト」や「ジャパンサステナブルファッショナライアンス」に加盟し、アパレル業界のみならず様々な業界のSDGsに係る現状や課題などを認識し、課題解決に向けた議論にも参加しました。

こうした活動を通じて私たちが抱える課題もより明確になり、その解決のためSDGs基本方針(3C)の3カ年計画を新たに策定しました。来期以降はこの計画に基づき、更なるSDGs支援を進めてまいります。引き続き、皆さまのご協力を賜れれば幸いです。



2

## SDGs 基本方針「3C」紹介

20  
SDGs  
21  
report

株式会社アーバンリサーチは、SDGs に対して企業風土を活かしたアプローチをするため「3C」というSDGs 基本方針を定めました。

中でも頭文字が「C」から始まる次の3つのテーマを中心に、アパレル企業視点で個性を生かした取り組みを推進します。

---



Move forward in our ways to SDGs  
by URBAN RESEARCH Co.,Ltd.



Clothing Innovation



Clean Earth



Community Building

## 1. SDGs 基本方針「3C」紹介



Clothing Innovation



### 1. Clothing Innovation／衣料資源の有効活用

#### 取り組み内容

- 1-1. サステナブル素材の活用
- 1-2. 生産量の適正化
- 1-3. アップサイクルの推進

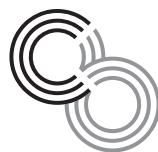


Clean Earth

### 2. Clean Earth／地球環境負荷の軽減

#### 取り組み内容

- 2-1. 従業員の環境に対する意識向上
- 2-2. 環境問題に関するお客様との価値共感
- 2-3. 環境にやさしいオフィスづくり



Community Building

### 3. Community Building／コミュニティの形成

#### 取り組み内容

- 3-1. 地域の技術や特産品を活かしたモノづくり
- 3-2. 異業種や自治体・NPOなど多様なビジネスパートナーシップ
- 3-3. 人々が集まり価値を共有できる場所づくり



3

## 3Cの主な活動事例

20  
SDGs  
21  
report

### 3. 3Cの主な活動事例

#### 1. Clothing Innovation／衣料資源の有効活用



##### Clothing Innovation

1. サステナブル素材の活用
2. 生産量の適正化
3. アップサイクルの推進

### 3. 3Cの主な活動事例

#### Green Down Project

2015年よりグリーンダウンプロジェクトの一員として、羽毛製品の回収とリサイクルダウンの商品企画に積極的に取り組み、羽毛循環サイクル社会に貢献しています。

羽毛は洗浄、精製加工することで“100年循環できる資源”とも言われています。立ち上げ当初の羽毛製品回収ボックス設置店舗数はURBAN RESEARCH DOORSの約40店舗でしたが、2022年1月末時点では9ブランド150店舗にて回収、内73店舗にてボックスを設置し、継続的にお客様へ回収協力を呼びかけています。

さらに、回収後に洗浄、精製加工された羽毛(=グリーンダウン)を使用したダウン製品の製造販売も積極的に進めています。



#### 生産量適正化に向けた取り組み

2021年度は、生産量適正化に向けて下記項目を実施しました。

- ・シーズン計画(MD計画)を元に、残品率目標に向けた適正な商品量計画の実施
- ・販売期限に向けた早めのアクション(在庫配置、販売強化)
- ・適量発注に向けての生産リードタイムを短縮



また、昨年に引き続き最新のマーケティングデータやIT技術活用などにより、新たなアプローチを模索するなど、様々な方法で生産量の適正化を図っています。

ファッションロスゼロを目指し、今後も様々な施策を実施する予定です。

#### compost

「compost(コンポスト)」は、共有、共同、常識、良識を意味する「common(sense)」と郵便・提示する・標柱を意味する「post」を組み合わせた造語で、これからの地球環境や人のはたらき方・暮らし方に対して、新しい常識を示していきたい、そんな想いから誕生したサステナブルマテリアル・プロダクトブランドです。

自社倉庫で廃棄される予定だった衣料品(販売不可能な不良品や汚損品)について、Colour Recycle Networkの“繊維を色で分けて付加価値のある素材にアップサイクルする”というカラーリサイクルシステムと大阪・箕面市で住民主体のまちづくりをされているNPO法人 暮らしづくりネットワーク北芝、また株式会社URテラスによる縫製等の作業支援を受け、協働によるものづくりを継続しています。

2018年11月に第一弾商品を発売以降、様々なプロダクトを生み出しており、2021年度は株式会社オルタナ主催の「サステナブル★セレクション」にて三ツ星を獲得しました。また同ブランドの取り組みが2021年度グッドデザイン賞受賞を受賞しました。(p.19に詳細記載)



compost  
SPECIAL PAGE

### 3. 3Cの主な活動事例

#### 2. Clean Earth／地球環境負荷の軽減



**Clean Earth**

1. 従業員の環境に対する意識向上
2. 環境問題に関するお客様との価値共感
3. 環境にやさしいオフィスづくり

### 3. 3Cの主な活動事例

#### SDR(エス・ディー・アール)の活動

SDR(Sustainability Development Research)は社内の各部署、各課をまたぎ、アーバンリサーチなりのSDGsの取り組みを考えるチームとして2018年に発足しました。

現在SDRは、各ブランドのサステナビリティ担当を中心に30名以上のメンバーで構成されており、毎週1回定例の会議を行い、社内のSDGs関連の取り組みの進捗確認や今後の動きについて話し合いをしています。SDGs基本方針である「3C」を作成したのもSDRです。

#### 過剰包装廃止、備品削減、「GREEN POINT」サービスの推進

これまで、ペーパーレス化の推進※<sup>1</sup>や、ショッピングバッグの素材を環境配慮素材に変更するなどの施策に取り組んでまいりました。今年度は「使い捨て備品」に対する取り扱いについて見直しを進め、下記の方針へと移行することが決定しました。ショッピングバッグにつきましては、引き続き、お客様へマイバッグのご持参を呼びかけるとともに、レジにてショッピングバッグをお断りいただいた方へ「GREEN POINT」※<sup>2</sup>サービスの促進強化を図ります。(p.25に詳細記載)

- ・商品お包み用の一部資材の使用を終了  
対象：不織布・ショッピングバッグ留めシール・エーキャップ
- ・使い捨て備品の削減  
対象：ショッピングバッグ・プラスチックハンガー・不織布性ギフト巾着

※<sup>1</sup> 2021年度から契約書等における書面の「電子化」を本格導入しました。

※<sup>2</sup> GREEN POINT  
アーバンリサーチグループでは、ご購入の際にショッピングバッグをお断りいただいたUR CLUB会員様に“GREEN POINT”としてUR CLUBポイント10ポイントをプレゼントしております。



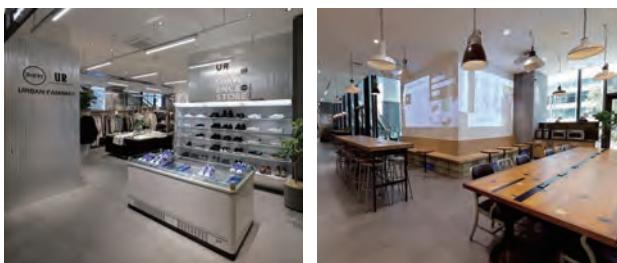
#### サステナブルな店舗づくり

卵の殻やコーヒー豆、火力発電所で発生する石炭灰など、様々な廃棄物を取り入れ内装全体の70%をサステナブルな要素でデザインした「アーバン・ファミマ!!虎ノ門ヒルズビジネススター店」。

コミュニティのハブステーションとしての役割も持っているアーバン・ファミマ!!では、地域活性化をメインタスクとするJAPAN MADE PROJECTのポップアップショップやTHE GOODLAND MARKETのポップアップショップを年間を通して開催し、お客様への発信・価値観の共有の場としてきました。

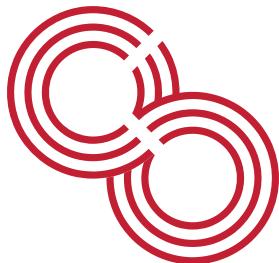
##### POP UP SHOP

- ・21年4月9日(金)～4月18日(日)  
JAPAN MADE PROJECT KYOTO 都松庵POP UP SHOP
- ・21年10月12日(火)～10月31日(日)  
THE GOODLAND MARKET POP UP SHOP
- ・21年12月10日(金)～12月26日(日)  
JAPAN MADE PROJECT KUMAMOTO Lady Bug POP UP SHOP



### 3. 3Cの主な活動事例

## 3. Community Building／コミュニティの形成



### Community Building

1. 地域の技術や特産品を活かしたモノづくり
2. 異業種や自治体・NPOなど多様なビジネスパートナーシップ
3. 人々が集まり価値を共有できる場所づくり

### 3. 3Cの主な活動事例

## JAPAN MADE PROJECT

「地域活性化」をメインタスクとして、日本各地の企業やクリエイターによって創られるローカルコミュニティとともに、その土地の魅力を再考し発信していくプロジェクト「JAPAN MADE PROJECT(ジャパンメイドプロジェクト)」。

今年度も様々な地域で取り組みを行ってまいりました。特に話題を呼んだ企画は、JAPAN MADE PROJECT “TOHOKU” の『ISHINOMAKI SHIRT』と名付けたバスケットシャツです。

2015年にはじまった東北での取り組みは、漁師を中心して水産関係の方々へ向けたファッショングの提案を行うものでしたが、今年度は『ISHINOMAKI SHIRT』という名前に込めて、海とともに生きる(=石巻で生きる)人に向けたプロダクトを目指しました。震災から10年という節目に「東北を中心とした生産背景でものづくりを行い、石巻を中心とした東北のみなさまにとってのスタンダードになってほしい」という想いから誕生しました。

漁師や船乗りをルーツとするファッションアイテムであり、現代ではファッションの定番アイテムとして多くの方に愛されている「バスケットシャツ」に、宮城の水産品である「鯖」「雲丹」「鮭」「牡蠣」を表現した絶妙なカラーを乗せています。(p.26に詳細記載)

JAPAN MADE  
URBAN RESEARCH

JAPAN MADE PROJECT  
SPECIAL CONTENTS ▶



## TINY GARDEN 萩科

TINY GARDEN 萩科では、2021年度より近隣の有機農家の規格外野菜を積極的に仕入れ、レストランでの提供を開始しました。フードロス削減はもちろん、今後も地域の環境保全や生産者の応援に繋がる取り組みの輪を広げていきます。

TINY GARDEN 萩科(タイニーガーデン タテシナ)

長野県茅野市北山 8606-1(萩科湖畔)

TEL:0266-67-2234 / E-mail: contact-tinygarden@urban-research.com



TINY GARDEN 萩科

栗野 龍亮

message

オープンから3年目を迎えたTINY GARDEN 萩科の2021年度は「顔の見える食卓」をテーマに食への取り組みを強化した1年でした。ここ長野県茅野(ちの)市はどうもろこしやセロリなど高原野菜が豊富なエリア。有機農家の規格外の野菜を仕入れることで、フードロス削減や農家の新たな挑戦を応援するための取り組みをスタートし、最大80%は半径30km圏内の素材で食事を提供することができました。

2022年度はこの取り組みや生産者との関係性を活かし、マルシェやイベントを通じてお客様に届けていく取り組みを行っていきます。



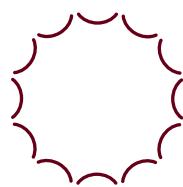
### 3. 3Cの主な活動事例

#### 株式会社 UR テラス

障がい者雇用促進とインクルージョンを推進する株式会社 UR テラスは、2021年3月10日付で株式会社アーバンリサーチの特例子会社\*1として認定されました。

UR テラスは、2019年4月の設立当初より、アーバンリサーチ本社からの委託事業である事務代行やWEBサイトの更新などを行っていますが、店舗で実際に販売する製品の企画や製造など、一般的な子会社ではない、アパレル会社ならではの業務も行っています。

業務をマニュアル化・バリアフリー化するなど、働きやすい環境づくりを行い、働くみんなが前向きにチャレンジできる場所、笑顔になれる場所を目指しています。



UR  
Terrace  
Co.,Ltd.



UR Terrace  
OFFICIAL SITE



\*1：障がいのある方の雇用の促進、そして安定を図るために設立された会社。

4

## 2021年度の活動

20  
SDGs  
21  
report

## 4. 2021年度の活動

### FC今治との共創

#### すごいをシェアするパートナーとしてプロジェクトを始動(2021/01)

2021年度より愛媛県のプロサッカーチーム FC今治(運営:株式会社今治、夢スポーツ)の「すごいをシェアするパートナー」として活動をキックオフしました。

今治、夢スポーツの「次世代のため、物の豊かさより心の豊かさを大切にする社会創りに貢献する」という企業理念に共感し、ファッションを通じて、みんなにとっての「すごい」をシェアし、心の豊かさにつながることを目指していきます。

アーバンリサーチと今治、夢スポーツは、地域を盛り上げていくこと、次世代の育成のこと、地球環境のことの「すごい」をシェアしていく活動に、これからも取り組みます。  
また、3Cで掲げている「Community Building(コミュニティの形成:人々が集まり価値を共有する場所づくり)」においても、貢献できるよう取り組んでまいります。

- ・コラボレーションTシャツ販売(2021/05)
  - ・サイクルステーション作りワークショップ(2021/07)
  - ・「海遍路／山遍路:瀬戸内アドベンチャー320キロ」ユニフォーム提供(2021/08)
  - ・ホーム戦でのブース出展
- 【物販／compost／Work Shop／キックターゲット／衣類回収】(2021/11)

FC今治サポートプロジェクト▶



### 自社衣料品の回収

#### 大阪府内11店舗で自社衣料品の回収スタート(2021/04)

洋服の製造段階において、これまで初期不良等の理由でメーカーへ返品され、廃棄されていた当社商品の引き戻しを2021年3月より開始しました。さらに、2021年4月からはお客様が不要になった当社の衣料品回収の取り組みも開始し、店頭で回収の呼びかけを行なっております。

回収した衣料品は主に「compost」の原料として再利用します。輸送にも様々なエネルギーが使われることから、まずは自社便が周回している10店舗を回収対象店舗としています。今後は、回収状況を見ながら店舗数拡大を検討し、廃棄衣料の削減を目指すとともに、資源の循環利用に取り組みます。



## 4. 2021年度の活動

### compost

#### 新商品「マーケットバッグ」をリリース(2021/05)

compostから「マーケットバッグ」が新たに誕生しました。

compost製品を制作するなかで、どうしても出てしまう端材をそのまま活かせる商品作りをしたいという企画者の思いから、縫製ではなく生地を編み込み、マーケットバッグのデザインに落としこむことでその課題を解決し、誕生しました。

商品詳細はこちら▶



#### 三井物産アイ・ファッショント「compost」を活用し新たな梱包袋を共同開発(2021/10)

使い捨ての紙製梱包袋の使用削減と、両社における廃棄衣料問題等(SDGs)に対する従業員意識向上を目的に、compostの生地を採用し繰り返し使える梱包袋の共同開発が実現しました。compostは、素材の特性上「撥水性」「耐久性」に優れており、これらの利点を活かしつつ、且つ配送時に利便性の高い仕様となるよう、細部にまでこだわり制作しました。

今後は企業間の垣根を超えて広く活用し、使い捨て紙資源の使用削減を目指します。



#### 「グッドデザイン賞」受賞(2021/10)

compostの取り組みが、2021年度グッドデザイン賞(主催:公益財団法人日本デザイン振興会)を受賞しました。

アパレル業界が抱える廃棄衣料削減の環境問題と、就労困難者における雇用創出の課題を同時に解決するビジネスモデルとして、販売実績はもちろんアップサイクルにおける外部研究チームとの協働、生産面での生産団体と作業工程の単純化、商品デザインと機能性の充実、「ふるさと納税品」の展開による地域の活動として伝えながら販売する点など、多面的な連携を行う取り組みの好例として、評価をいただきました。



また、2021年度グッドデザイン賞審査委員が選ぶ、個人的に気になったデザインやお気に入りの受賞デザイン約70点を展示する人気企画「私の選んだ一品」において、審査委員の玉井美由紀様よりセレクトいただき、2021年10月20日(水)に開催された同企画展へと出展されました。



#### 「サステナブル★セレクション」にて三ツ星を獲得(2021/11)

株式会社オルタナ主催の「サステナブル★セレクション」にてcompostの取り組みが三ツ星を獲得しました。

#### サステナブル★セレクション

株式会社オルタナが2020年より開催するサステナブルな製品/サービス/ブランドを独自の基準で審査し、合格したものを「サスセレ」として推奨する取り組み。一つ星から三ツ星の3段階あり、最上位の三ツ星に関しては、外部の有識者からなる審査会で議論する。

#### EVENT & POP UP SHOP

21年4月23日(金)~4月25日(日) PASS THE BATON MARKET Vol.4

21年10月16日(土)~10月17日(日) ルミネ新宿「SMART LIFE」

21年12月11日(土)~12月12日(日) PASS THE BATON MARKET Vol.6

#### 2021年度グッドデザイン賞審査委員 玉井 美由紀 様 コメント

様々な素材を使用する衣服はリサイクルが困難でしたが、色をリサイクルするという画期的な技術をベースに、廃棄される衣類を回収、アップサイクルし、さらにすべての工程でアパレル業界が抱える社会課題の解決に取り組んでいる。私自身、ものがあふれる現代において、これからものづくりは社会課題を解決していくなければならないと考えていて、その上で、この循環の仕組みが素晴らしい、今後のあるべき姿だと思った。

## 4. 2021年度の活動

### 「国際サステナブルファッショントEXPO」出展／B to B事業を開始

#### 「国際サステナブルファッショントEXPO」出展 compostとUR GREENでB to B事業を開始(2021/10)

エコ・リサイクル・アニマルフリー・エシカル・オーガニック・フェアトレードなど、サステナビリティを考慮したファッショント製品・素材が世界中から出展する日本初の専門展「国際サステナブルファッショントEXPO」。

2021年10月18日(月)～20日(水)で開催された「第1回 国際 サステナブルファッショントEXPO 秋」に出展し、B to B取引を視野に入れ、「compost」および当社で独自開発しているサステナブル素材「UR GREEN」を展示しました。また、会期中に実施されたPRセミナーでは、弊社執行役員の萩原が登壇し、多くの来場者様に聴講いただきました。

展示会後、compostの企画において取引実績が生まれ、B to B事業が本格的に開始されました。



来場者数：3日間合計 19,383名 (同年4月開催 対比 154.7%)

### UR GREEN

#### REAMIDE for UR GREEN

当社では「UR TECH」と題した独自の素材の開発も行っています。そのなかで、環境・社会課題の解決に貢献することを目指して取り組んでいる素材・生地が「UR GREEN」です。2021年は、海にまつわる課題のひとつ「漁網」に対してのアクションとして国内の企業と協業し、廃魚網由來の生地開発に取り組みました。日本国内で唯一回収から再生まで行うリファインバース社が手掛ける再生ナイロン樹脂「REAMIDE」と協業。ファッショントの分野で提案の幅を広げるため、和歌山にて地球にやさしく海に負担の少ない天然染めを行う「H.A.L.U」社にご協力いただき、色鮮やかな再生ナイロン生地を開発しました。



#### 【素材】

再生ナイロン 25%、バージンナイロン 75%

#### 【生産背景】

[回収拠点] 日本(北海道厚岸町)  
[ペレット製造] 日本(愛知県一宮市リファインバース社)  
[フィラメント紡糸] 台湾／紡績：日本(北陸地方)  
[ステーブル紡糸] 日本(兵庫県、岐阜県)／紡績：日本(愛知県)

#### 【染色】和歌山

染色の全工程において天然素材にこだわり、環境負荷の軽減に取り組みます。  
[原料例] 茜(アカネ)、胡桃(クルミ)、桑の葉、ウコン、ロッゲウッドなど

#### message

プロダクト事業部 マネージャー  
**西川 茂樹**



21年は中国での生産が多いなか、コロナ禍で現地に直接出向けないという事もあり、トレーサビリティの把握が課題となりサステナブルな素材開発は難しく感じる一年でした。社内では企画者を中心にサステナブルな生地を使いたいという要望は徐々に高まっていると感じています。このところ中国でもGRS認証の取れた再生繊維を使った素材の開発が劇的に進化しており、22年は情報収集も効果的に行いURらしさも見直したファッショナルかつサステナブルな素材の開発を進め、社内～社外に向け発信していきたいと考えております。

## 4. 2021年度の活動

### THE GOODLAND MARKET

株式会社ヤギ×株式会社アーバンリサーチ×東京ファッショントekノロジーラボ×大阪文化服装学院による、産学連携プロジェクトを始動。学生による3Dを活用した企画提案で、商品化へ。(2021/05)

本プロジェクトは、大阪文化服装学院のファッショ・クリエイター学科3Dモダリストコース2年生の学生10名が、THE GOODLAND MARKETに3Dを活用した新たな仕組みで商品企画を提案し、2022年春夏の商品化を目指すものです。大阪文化服装学院の学生がデザイン作成を行う際には、株式会社ヤギより生地素材・パターンデータが提供され、3Dデザインやバーチャルサンプル制作についてはTFLが派遣する講師チームがサポート。2021年9月と2022年3月に学生によるプレゼンテーションを実施、商品化の審査には「THE GOODLAND MARKET」の企画チームが行い、優秀デザインはその後実際のプロダクトとして株式会社ヤギが商品化を進めます。



地球に優しい食品を、必要な分だけ。パッケージフリーで購入できる食品の量り売りをスタート。(2021/01)

HEALTHY HUBが厳選した、ナッツ・ドライフルーツ・豆・穀物類・調味料など、約24種類の商品を販売開始しました。ラインナップに並ぶのはフェアトレードや生産者への支援などの取り組みのなかで生産され、環境問題や社会課題に配慮してつくられたもの。地球にも人にも優しい食品を、お持ちいただいた容器に商品を詰めて、必要な量だけご購入いただくことができます。



#### HEALTHY HUB

「自然やひとを傷つけず、かつ今ある社会問題解決への一助になる買い物が手軽にできるお店」をコンセプトに、食材や日用品の量り売り・エコサポート雑貨の販売を行っている事業団体。多すぎるごみやCO2の排出、プラ問題、環境負荷の高い大規模農業やフードロス、児童労働や健康を害するような長時間労働など、生活の見えないところで関わっている社会問題に配慮して作られた商品を扱っています。



Instagram : @healthy\_hub\_tokyo

#### EVENT & POP UP SHOP

- 21年4月23日(金)～4月25日(日) PASS THE BATON MARKET Vol.4  
21年10月2日(土)～10月3日(日) MIYASHITA PARK「明日を考える都市型ナイトマーケット 渋谷夜市」  
21年10月16日(土)～10月17日(日) ルミネ新宿「SMART LIFE」  
21年11月13日(土)～11月14日(日) KURKKU FIELDS「able for the FUTURE (未来のために私たちができること)」  
21年12月11日(土)～12月12日(日) PASS THE BATON MARKET Vol.6



#### 事業本部 SBU部 部長

#### 新山 浩児

message

2021年は、URBAN RESEARCH 堀江店でのショップインショップをスタートさせ THE GOODLAND MARKET(以下 TGM)と親和性のあるコアコミュニティとのイベントを開催するなどリアル店舗からの発信に注力し、ファン獲得へのベースづくりの1年でした。今春、URBAN RESEARCH 堀江店からTGM堀江店単独の運営となりました。「人や環境に配慮した循環型ファッショントライフスタイルを提案」を軸に昨年、種蒔きをした芽(点と点)を TGM 独自のイベントや、外部イベント出店&キュレーションに力を入れ繋げていきたいと考えています。



## 4. 2021年度の活動

### Loopach

#### パッキングプラットフォーム「Loopach」の導入がスタート(2021/06)

人にも環境にも優しく、売る人と買う人で共創する、持ち歩くことで世界が変わる。エコバッグに代わる新たなパッキングプラットフォーム“Loopach（ルーパック）”の導入をURBAN RESEARCH DOORSの各店、URBAN RESEARCH 堀江店（現 THE GOODLAND MARKET 堀江店）でスタートしました。当社のSDGs基本方針である3Cの理念に基づき「Loopach」の考え、取り組みに賛同し、パートナー様とお客様と共に積極的に取り組みます。



#### Loopach（ルーパック）

何度も繰り返し使用する環、協業・共創での広がりの和を意味する「Loop」  
荷物・包装を意味する「Pack」  
テクノロジーによる技術的価値の意を込めた「Tech」が併せた造語。  
環境に配慮したエコバッグを日々利用し、その小さな積み重ねが賛同する非営利企業や行政へ寄付できる、新たなパッキングプラットフォーム。

### BOSAI FASHION LABO

#### 防災とファッショನを考える「BOSAI FASHION LABO」を立ち上げ(2021/09)

大阪府主催の『万博×環境 未来を描こうプロジェクト』と協働し、同プロジェクト防災班ユースメンバーとともに、防災とファッショhnを考える「BOSAI FASHION LABO」を2021年9月1日(水)「防災の日」に立ち上げました。

初年度は、全国の高校・大学の学生を対象に、防災に役立つアパレル・グッズ企画を対象にした「第1回防災ファッショhn アイディアコンペティション」を開催。

合言葉は「#もしもファッショhn」

“身に付けたくなる防災アイテム” “もしものときに役立つファッショhn”をテーマに、あらゆる災害シーンで役立つアイテムのアイディアを募集し、多くの作品がエントリーされました。入賞作品は、表彰の上、そのデザインを実際に商品化し、当社にて販売予定となります。

なお、本取り組みは、2025年大阪・関西万博の開催テーマ「いのち輝く未来社会のデザイン」とコンセプト「未来社会の実験場」を継承し、災害大国である日本の防災意識を、ファッショhnの力によって高め、気候変動に備えた持続可能な社会を構築することを目的としています。



こちらもご覧ください ▶  
URBAN RESEARCH MEDIA



「世界中の災害から人々を救う「きっかけ」を作ろう。『BOSAI FASHION LABO』が目指す未来。」

#### message

SDR（サステナビリティ推進）兼  
デジタル営業部プレス課

川瀬 晃子

きっかけは大阪・関西万博の公式プログラム「TEAM EXPO」の共創パートナーに当社が参画したことになります。様々な企業団体様と対話をさせていただくながで、ある日、大阪府様から防災のプロジェクトに取り組む若い学生の方々が「アーバンリサーチとコラボレーションしたい」とリクエストを預かったとご連絡をいただきました。「防災×ファッショhn」ということで、ファッショhnの分野からどのように力になれるのかと不安でしたが、メンバーの皆さんの熱量と、問題に向き合う真摯な姿勢に次第に強く心を動かされるようになりました。初年度のアイディアコンペティションは無事多くの方にご応募いただくことができましたが、私個人としては、メンバーの皆さんと同じ目標に向かって取り組む時間が、なにより貴重な体験であると思っています。次年度も引き続き、皆さんと一緒に新たな施策について検討を進めていきたいと考えています。



#### 4. 2021年度の活動

## JICA関西 × 新巽中学校

### JICA関西 × 新巽中学校 SDGs学習プログラムへの参加(2021/09,2021/11)

JICA 関西と大阪市立新巽中学校が企画・実施している「SDGs学習プログラム」に参加しました。

9月に実施したオンライン交流会では、当社が掲げるSDGs基本方針とその取組事例の紹介や、アパレル産業が抱える課題を挙げながら、廃棄衣料について何が出来るかを生徒の皆様と一緒に考えました。11月には、URBAN RESEARCH DOORS 南船場店へお招きし、オンライン交流会の際に課題として与えた廃棄衣料問題を受けて、それぞれに取り組んだことや、解決策のプレゼンテーションを発表していただきました。当社からはそれらのフィードバックと、生徒の皆様に、compostの製作現場の見学と、サコッシュ作りのワークショップを体験いただきました。



なお、本プログラムは、JICA 海外協力隊経験者らへのインタビューから「世界の SDGs の“今”」を知り、大阪府内でSDGsに取り組む企業や団体との意見交換や訪問プログラムを通して身の回りのSDGsを体感。それらの学びを通して、生徒たち自身がSDGsを発信するためのテーマパーク「しんたつランド」の開催を目指すものとなっております。



- 21年9月16日(木) JICA関西 × 新巽中学校 SDGsオンライン交流会
- 21年11月12日(金) JICA関西 × 新巽中学校 SDGs交流会 企業訪問

## 4. 2021年度の活動

### Green Down Project

#### 第3回 GREEN DOWN PRODUCT DESIGN COMPETITION

最優秀賞、特別賞受賞作品を商品化(2021/10)

2020年11月に実施した「第3回 GREEN DOWN PRODUCT DESIGN COMPETITION」において、最優秀賞・特別賞を受賞した作品を商品化し、10月8日(金)より販売開始しました。

本コンペティションは、学生を対象とする「GREEN DOWN (グリーンダウン)」を使用した製品デザインコンペティションです。今回は多数のエントリーの中から、WEAR部門とGOODS部門に分け、各部門からデザイン、コンセプト共に優れていた、池上 葵さん(京都女子大学)、陳 韶英さん(上田安子服飾専門学校)の作品を最優秀賞とし、選出。また、特にデザイン面において、当社商品企画者より評価の高かった、名蔵 愛美さん(大阪文化服装学院)の作品を特別賞に選出し、それぞれ商品化しました。



受賞者インタビューはこちら ►



商品詳細はこちら ►



#### GREEN DOWN PRODUCT DESIGN COMPETITION

produced by  
URBAN RESEARCH Co.,Ltd.



#### 第4回 GREEN DOWN PRODUCT DESIGN COMPETITION 開催(2021/12)

Green Down Projectの活動の一環として2019年より実施している、次世代のアパレル産業を担う学生の皆様を対象とした「GREEN DOWN (グリーンダウン)」を使用した製品のデザインコンペティション。毎年多くの学生様に参加いただいています。

開催にあたっては、事前セミナーとしてGreen Down Project 代表理事の長井浩一様にご登壇いただき、Green Down ProjectをはじめSDGsに関するお話をさせていただきました。学生の皆様には、羽毛の有限性はもちろんのこと、世界規模で実際に起こっている環境問題などに关心を持つきっかけとなってほしいという想いで実施しています。

Green Down Project  
公式WEBサイト



#### THE GOODLAND MARKET

#### 下間 祥子

今年のGDPコンペ受賞商品は、雑貨も選ばれていたり、例年とは違いダウンから連想されやすい、いわゆる“アウター”といったアイテムがなかったので私自身にとても、本当にチャレンジでした。

「一人だけの力では商品はうまれない」ということを改めて感じさせていただいて、今年の企画では、より多くの社内の方とも関わり、助けていただきながら、学生の方・URBAN RESEARCH社員みんなで作り上げることができたと思います。

去年に引き続き、この取り組みからとても刺激を受け、勉強させていただきました。  
次のコンペではどういったアイデアが飛び出てくるのか楽しみにしています！



message

## 環境配慮促進へ向けた施策の再強化

### 全社で使い捨て備品など削減

#### +アーカイブ品の取り扱い店舗の拡大(2021/11)

店舗やオフィスで使用している備品類の採用を全社で見直し、環境配慮促進へ向け施策を再強化。同時に、アーカイブ品の販売店舗を全社的に拡大することが決定しました。

#### (1) 使い捨て備品等の削減・廃止

廃止対象：不織布・ショッピングバッグ留めシール・エーキャップによる過剰包装

削減対象：ショッピングバッグ・プラスチックハンガー・不織布性ギフト巾着

お客様へマイバッグのご持参を呼びかけるとともに、レジにてショッピングバッグをお断りいただいた方へ「GREEN POINT」サービスの促進強化を図ります。



#### (2) アーカイブ品の販売強化

当社ではこれまで、シーズンをすぎた商品は店頭から物流倉庫へと引き戻し、アウトレット事業部等へと再分配し販売してまいりました。2021年度より、物流スペースの確保や配送エネルギーコストの削減を鑑み、それらの商品をアーカイブ品として全社的に販売を強化するため、取り扱い店舗を拡大しました。



#### (3) リユースハンガーの販売店舗拡大

当社では、各ブランドにおいてオリジナルハンガーを製作し使用しています。

閉店店舗の引き上げなどの理由から、店舗での役目を終え倉庫で保管されているハンガーをリユースハンガーとして販売し、取り扱い店舗を11月上旬より拡大しました。

詳細はこちら ▶



### JAPAN MADE PROJECT “TOHOKU”

震災から10年。海とともに生きる人へ向け、「ISHINOMAKI SHIRT」と名付けたバスケットシャツを販売。(2021/03)

JAPAN MADE PROJECT “TOHOKU” 第6弾目である本作は、プロジェクトパートナーである東北の若手漁師集団「FISHERMAN JAPAN(フィッシャーマン・ジャパン)」に加え、仙台発祥のカットソープラント「Tieasy Authentic Classic (ティージーオーセンティッククラシック)」の力を借りて、東日本メイドのバスケットシャツを製作。

震災から10年を迎えるにあたり「東北を中心とした生産背景でものづくりを行い、石巻を中心とした東北のみなさまにとってのスタンダードになってほしい」そんな想いを「ISHINOMAKI SHIRT」という名前に込めて、海とともに生きる(=石巻で生きる)人に向けたプロダクトを目指しました。

役場で働く女性から、体格の良い漁師の方まで、海とともに生きる(=石巻で生きる)多くの人に着ていただけるよう、現地の方の意見を伺いながら程よくオーバーサイズに仕上げています。漁師や船乗りをルーツとするファッションアイテムであり、現代ではファッションの定番アイテムとして多くの方に愛されている「バスケットシャツ」に、宮城の水産品である「鯖」「雲丹」「鮭」「牡蠣」を表現した絶妙なカラーをのせています。



コンセプトムービー ▶



URBAN RESEARCH MEDIA  
「東北の今」特集 ▶



商品詳細はこちら ▶



### JAPAN MADE PROJECT “KYOTO”

あんこ菓子専門店「都松庵」と小倉バター味の羊羹を共作(2021/04)

京都で創業70年余りの製餡会社が展開するあんこ菓子専門店「都松庵」と協業し、オリジナルフレーバーの「OGURA BUTTER YOKAN」が誕生しました。

忙しい人の補給食としてもおすすめしたい都松庵の「ひとくちようかん」。  
小豆の食感と風味、バターのコクを活かすことを製餡会社の特殊製法で実現しました。  
塩のバランスも調整することで、今までの羊羹にはない独特な甘塩っぱさが口のなかに広がります。小豆とバターをひとつの羊羹に。そのまで。パンに乗せて。自身でご自由にアレンジしてお楽しみいただけます。



message

SDR(サステナビリティ推進)

宮 啓明

2021年も様々な取り組みが実現し思い入れがありますが、1つ例をあげるとすれば「TOHOKU」の取り組みです。東日本大地震から10年という節目に、東北の若手漁師集団「FISHERMAN JAPAN(フィッシャーマン・ジャパン)」をはじめとするパートナーのみなさまと、石巻市の名を冠した「ISHINOMAKI SHIRT」を企画。東北を中心とした生産背景でものづくりを行い、東北の地で海とともに生きる人たちに向けてバスケットシャツを作りました。遊び心として、石巻の有名な海産物から色展開を考えたのですが、みなさんと海産物の写真とにらめっこしながら、あーでもないこーでもないと色を考えた時間がとても楽しかったです。  
2022年も、全国のパートナーのみなさまと、新しく出会う未来のパートナーのみなさまとともに地域の魅力を考え発信していきたいと思います。



### SDGsに関する取組の講演

#### 事業構想大学院大学にて commpostにおける講義を実施(2021/12)

新規事業を生み出す人材を育成する「事業構想大学院大学」大阪校にて、当社の執行役員 萩原が2021年12月1日(水)、commpostの取り組みにおける講義を実施。当日は、東京、名古屋、福岡など全国のキャンパスよりオンラインで多くの方にご参加いただきました。

取り組みの背景にある考え方や今後の展望を中心に、当社のSDGsへの取り組みに対する考え方を交えながら展開し、多くの学生様と対話させていただきました。

#### <その他 講演実績>

##### ・2021年3月31日(水) 株式会社ヤプリ様 主催 ONLINE MEET UP

執行役員 萩原とSDR(サステナビリティ推進)川瀬が登壇し、commpostの事例を中心とした当社の取り組みについてお話をさせていただきました。

##### ・2021年6月24日(木) Hello! TEAM EXPO 2025 Meeting

2025年 大阪・関西万博開催に向けた交流イベントにSDR(サステナビリティ推進)宮が登壇しました。当社が参画している「共創パートナー」において、創出・支援したいチャレンジ内容をお話をさせていただきました。



### 「関西大学 SDGs パートナー制度」登録

#### 産官学連携を強化し SDGs推進を図る

#### 「関西大学 SDGs パートナー制度」へ登録(2021/12)

当社は、本パートナー制度の登録により、SDGsに関する以下の取り組み実施の検討を発表しました。

1. 2025万博に向け、双方のリソースを活用した共創
2. 学生を対象としたSDGs推進施策の試験運用
3. 教員や学生の多様な知見を活かした商品開発
4. 地域コミュニティと連携したイベントの共催
5. 当社の取り組みとの連携



本制度を通じ、取り組みに賛同する企業、自治体、教育機関、団体等とパートナーとして連携し、相互の人的、知的資源の交流と物的資源の活用により、SDGsの一層の推進に努め、関西大学が有する豊富なネットワークとの連携の強化を図ります。また、本制度を基盤に「産・官・学」協働の多彩な取組を展開し、世界に溢れる様々な社会課題に対するトレードオンを目指します。

## SAVE OUR PLANET / SENSE OF PLACE by URBAN RESEARCH

### 「SENSE OF PLACE ARCHIVE」OPEN(2021/03)

SENSE OF PLACE by URBAN RESEARCH 初のオフプライスショップ「SENSE OF PLACE ARCHIVE(センスオブプレイス アーカイブ)」が2021年3月6日(土)にイオンモール茨木店を改装しオープンいたしました。

リニューアルに伴い、ウィメンズ・メンズアイテムの他に、商品サンプル・アパレル雑貨・BLOMSTER SENSE OF PLACEのフラワーアイテムやインテリアグッズなど、ここでしか出会えない商品を特別な価格で展開。

また、持続可能な世界を実現するための開発目標(SDGs)のプロジェクト「SAVE OUR PLANET」の取り組みとして、エコバッグの推進とショッパーの有料化をスタートしました。



### SAVE OUR PLANET オーストラリア チャリティ Tシャツの販売及び寄付の継続(2022/01)

2019年のオーストラリアの大規模な森林火災を受け、被害が甚大だった地域の動物たちの救護・環境の回復等を直接支援するため、2020年5月よりチャリティ Tシャツの販売・Tシャツの収益の全額寄付を行っています。



商品詳細はこちら ▶



### SAVE OUR PLANET

SENSE OF PLACE by URBAN RESEARCHではSAVE OUR PLANETのプロジェクトを通じてサステナブル(持続可能)で自然・動物・ヒト・その他地球に在る全てのものへの負担を低減させるきっかけとなる活動に取り組んでいます。



【2021年度 寄付額 / ¥95,294】

※本商品の販売・収益の全額寄付は継続して行います。



SAVE OUR PLANET

5

## 社内の動き

20  
SDGs  
21  
report

## 5. 社内の動き

### 社内体制の強化

2021年4月より、各ブランドとオフィス部門にサステナビリティ担当を設置しました。これにより社内の体制強化を図りながら、さらなる施策の実行に向け動き出しています。

### SDR通信／SDR通信 Plus

SDGsやSDR(3C)の周知及び社内スタッフのリテラシー向上を目的とし、2020年6月より配信を開始した社内報「SDR通信」。

また、本来なら一般のお客様へはお見せすることのない社内報ですが、皆様に広く知っていただきたい内容に関しては「SDR通信 Plus」として、当社のオウンドメディア「URBAN RESEARCH MEDIA」で昨年11月より不定期連載を開始しました。

#### 【今年度の配信数】

SDR通信：全22回配信

SDR通信 Plus：全3回配信



こちらのQRコードより  
「SDR通信 Plus」を  
ご覧いただけます ▶



### SDGs勉強会

「3C」の理解浸透及び社内スタッフのSDGsリテラシー向上を目的とし、今年度よりオンラインによる勉強会実施を開始しました。2021年度は全4回実施し、廃棄衣料問題や障がい者雇用の現状など、スタッフの手で情報発信を行うことができました。

また、この勉強会の様子はアーカイブ動画として社内スタッフがいつでも視聴できるようにしています。



#### SDR（サステナビリティ推進）

##### 柳堀 佑太

SDGsやアパレル業界の抱える廃棄衣料の問題など、大きな規模感でのことを知っていたこと、興味を持っていただくことはもちろんですが、普段働いている中では見ることの少ない社内の倉庫の様子や、知ることの少ない自分の所属していないブランドの取り組みなどについても知っていただく機会になったのではと感じております。準備から運営まで大変なことも多いのですが、参加いただいた方から「今まで知らなかつたことを知ることができた」「もっと知りたくなった」などコメントをいただくことができ、実施してよかったなと思いました。今後は社内だけでなく、外部の方を講師としてお呼びするなど、より充実した内容の開催を目指していきたいと考えております。



message

## 5. 社内の動き

### シェアクラブ

当社では、シェアクラブ制度を導入しています。

シェアクラブとは、社員の趣味、特技、興味のあることを通じて創る「すごいをシェアする」コミュニティであり、資金や活動場所を提供することで、スタッフのやりたいことを実現していく取り組みです。

#### LAKE SEEKER'S

昨年のクラブ発足後、WILDTINGSやELECTRICといったアウトドアブランドとコラボレーションし、フィッシングシーンでも活用するアパレルや雑貨を制作しました。また、セレクトショップとしてはまだ取り扱いのないフィッシングに使えるウェアやギア関係のセレクトもスタートしました。

シェアクラブの活動としては、積極的なフィッシングの大会の出場や、フィッシング界で著名なYouTuberの方との釣行企画など、少しずつコミュニティを広げていきました。活動を続けることで運用しているSNSのフォロワーも少しづつ増えています。次年度も更により強いコミュニティ作りを目指したいと考えています。

なお、LAKE SEEKER'Sでは、就業時間内での活動が認められており、趣味や特技を仕事に活かしながら勤務できる環境が用意されている代表的なクラブです。



#### 【2021年 実績】

##### ▼大会

21年4月7日(水) 大会「2021 MONSTER HUNTING R」出場

メンバーの阿部 優勝 坂上 4位入賞

21年11月7日(日) 大会「THE BATTLE OTHERSELF」出場

メンバーの阿部がビックベイト賞を受賞(ビックベイトというルアーを使ってのフィッシング)

##### ▼釣行企画

YouTuber なすび氏 / YouTuber ないちゅーん氏 / ジャッカル 水野氏

##### ▼コラボレーション(一例)

WILDTINGS×LAKE SEEKER'S

ELECTRIC×LAKE SEEKER'S

#### LAKE SEEKER'S

2020年に、ファッションと釣りを楽しむためのライフスタイルを追求するアーバンリサーチのコミュニティから生まれたフィッシングクルー。釣り具メーカーとの共同アパレル開発やフィッシングイベントへのゲスト出演、プロスタッフとのプライベート釣行などを通して、より広い層へ豊かなフィッシングライフを提案。最新情報は主に公式YouTubeチャンネルとInstagramで発信中。

商品詳細はこちら ►



公式 YouTube チャンネル ►



Instagram ►



#### URBS ブランドディレクター 村手 謙介

message

コロナによってライフスタイルが大きく変化しました。  
その中で、“フィッシング”というは自然に触れ合い、そして仲間と時間を共有し、  
共感し合うことができる1つのアクティビティだと考えています。  
新しい出会いや繋がりを大切にして、より多くの人に感動を与え、そして楽しんでい  
ただけるようなコミュニティ作りを目指していきたいと思います。



## 5. 社内の動き

### ママシェアクラブ

シェアクラブの前身である同好会制度の時から集まっていたメンバーを中心に、2020年の年末に仕事と家庭の両立をめざしてママ同士で情報共有をすることを目的に設立。

現在は社内のママコミュニティでの情報を持かし、定期的なWEBコンテンツを作成・販売促進に努める。所属ブランドの垣根を超えて、ママのフィルターを通して商品ピックを行い、その時期特有のマザーニーズに合わせたコンテンツを公開しています。

#### 【2021年 実績】

21年2月26日(金)

先輩ママに聞く!卒園式・入学式のための“軽やかフォーマル”

21年4月23日(金)

ママのお悩み解決服! チェアリング&思いっきり遊べる公園コーデ

21年6月29日(火)

ママのお悩み解決服! 夏の“体型カバー”

21年9月24日(金)

ママのお悩み解決服! プレママが選ぶ“産後も使える”アイテム

21年11月5日(金)

ママのお悩み解決服! キーワード別アウター 6選

### ちきゅうとくらし

2020年に設立し、「サステナブル」や「エコ」をキーワードに、暮らしやモノコトに関して考え、情報交換することや実験的な試みを中心活動しています。

現在は、農家さんにご協力いただきながら、DOORS HOUSE(南船場)の屋上でパーマカルチャーをベースに菜園作りを進めています。

畑には「自然」のサイクルがそこにあり、人為的なものとは別の「自然」の時間が流れています。

そんな時間に身を置くことで感じられるコトや、そこに集う方々が本当に素敵です。

ぜひ、気が向いたらいつでもふらっと畑に遊びにきてください!

※毎月第2土曜日は特におすすめです!



Instagram

### 再生可能エネルギー

2021年度、供給電気を再生可能エネルギーへ転換した店舗・オフィスが増えました。

- THE GOODLAND MARKET 堀江店(2021/4/1~)
- URBAN RESEARCH KYOTO(2021/4/1~)
- URBAN RESEARCH DOORS 南船場店(2021/2/8~)
- URBAN RESEARCH warehouse 東大阪店(2021/2/8~)
- WEB 北堀江スタジオ(2021/4/1~)

みゆな電力

九電みらいエナジー  
Kyuden Mirai Energy

## サステナブル素材の活用

当社では、サステナブル素材に関する様々な第三者認証の仕組みを調査・分析し、独自のサステナブル基準作りを進めています。各ブランドにおいては、その基準に基づいた新素材の採用を隨時検討し、商品企画に取り組んでいます。

21年度 サステナブル素材仕様商品の例



[ブランド]  
URBAN RESEARCH  
[品番]  
UR14-11M001  
[品名]  
リラックスポートネックボーダー L/S  
[使用素材]  
オーガニックコットン  
(トゥルーコットン)



[ブランド]  
FORK&SPOON  
[品番]  
DF14-11V006  
[品名]  
ポートネックボーダー<sup>®</sup>  
[使用素材]  
オーガニックコットン  
(GOTS 認証)



[ブランド]  
NANGA×URBAN RESEARCH DOORS  
[品番]  
DR17-17H708  
[品名]  
インナーダウン  
[使用素材]  
リサイクルダウン  
(GREEN DOWN)



[ブランド]  
SENSE OF PLACE by  
URBAN RESEARCH  
[品番]  
AA14-25C004  
[品名]  
ストレッチサスツキハイウェイエストスカート  
[使用素材]  
再生繊維(エコヴェロ)

## 目標達成に向けて

SDGs 基本方針「3C」の達成に向けて、下記の取り組みを実践しています。

### 目標の細分化と進捗管理

2030年までの長期目標と3ヶ年中期計画の立案を行っています。  
また、それに基づいて年度別の施策を3Cのテーマ毎に決定し、  
目標の細分化を図っています。

### 定期的な評価と課題の整理

目標達成向け、定期的に実績に対する評価を行っています。  
進捗状況によっては、課題の整理を行ったうえで、達成へ向けた施策案について再検討しています。

## 腐敗防止への取り組み

当社では、公正で倫理的な事業活動を行うため、下記の取り組みを実践しています。

### 内部監査室及びコンプライアンス委員会の設置

法令順守を確保するための組織体制を構築しています。  
行動基準として「コンプライアンス・マニュアル」を定め、内部通報窓口として  
「コンプライアンス・ホットライン」を設けています。  
また、法務部門から事業部門に法改正情報を提供し、法律相談に応じる体制を整えるとともに、  
定期的に社員向けのコンプライアンス研修を実施しています。

### ガバナンス体制の強化

執行役員制度を導入し、経営の意思決定と業務執行の機能の分離を図り、  
迅速な経営判断・業務執行を行っています。  
更に、監査役・内部監査室・会計監査人の3者が連携して、  
業務がルールに基づき適切に執行されているかなど、定期的に監査しています。

最後に ...

2021年度は、依然新型コロナウイルスの猛威は止まず  
引き続き社会状況が不安定ななかではありましたが、  
当社では「サステナブルファンクション EXPO 2021 秋」への出展を機に  
B to B 事業への進出など、新たな挑戦を試みることができました。  
新たなパートナー様を迎え、今後に向けた様々な準備ができた1年であったと思います。

2022年度も、これまで以上に根を張りながら、施策の具現化に努めてまいります。  
引き続き、どうぞよろしくお願ひいたします。

## About us

---

名称

株式会社アーバンリサーチ

本社住所

大阪府大阪市西区京町堀1丁目6-4 アーバンリサーチビル 10F

設立

1989年11月8日

資本金

1,000万円

事業内容

メンズ・レディースウェアなどの企画・販売・製造及び付随業務



20  
SDGs  
21  
report

# 20 SDGs 21 report

発行日 2022年8月19日  
問合せ先 SDR(サステナビリティ推進)  
[info-sustainability@urban-research.com](mailto:info-sustainability@urban-research.com)